



綾
錦

豆

~ 5
1265
1

分



T. Kadokome
28.10.50



遐兮往古無誹諧宗匠者
唯有連譔宗匠添削誹諧
而已自慶長中花咲翁蒙
誹林一道之宗匠免許以
來海內靡然爲之誹林權

〇 接上

〇 一

利
1205
卷一

興矣自是以來其源洪トク其流蕩トク逢トク此道以爲宗
匪者如潮涌如流漫連者
幽玄トク誹者寬濶捨其屈樂
其伸一人之心追トク方人而
移者時勢使トク之然耳遂有
宗匪出連而入誹者混トク

淡トク不可辯識焉倘有東
都下トク黜者影其澹區トク不
分明矣因是遼以古書爲
力中蹲踞老誹之前拂トク其
鼻上之塵追任其所知覺
各逞トク我持量次第トク猶
蜘蛛之トク縑トク系統錦之分トク縷

以爲此書題號云尔
享保壬子夏日武陽江都
神田散人崔下菴沾涼叙



綴錦卷之上

沾涼集

○元來建歌と俳諧、別くの地にあふると古の
連歌今の俳諧混合一と其差別一建治舊式
應安新式より建歌の法より海りみらるるに
云々としてゑぬ事と俗言は海りみらるるに
狂連歌と云ふは、狂連歌と云ふは、狂連歌の
久きと云ひし物と建歌と俳諧連歌と名付るもの
真連歌 今建歌 狂連歌 今俳諧し
○俳諧俳諧乃之をめぐりて流去りて海くは
を此のては品とて八雲抄九品乃らして

誹ハ甫尾ノ切ハイノ音カ一俳ノ字ト用也
交定一ハ宛有リ

俳ハ説文俳戯也从人非声亦牌也

徐曰今言俳優是也漢書流笑の類俳侶と

ありて東方朔或曰俳の曾利のの類

と如俳優なり優誨と云人の秦の侶侏儒し

郭舎ハ武帝ハ侶し俳侶トツ、キテ共ニ
日本ニ云伽ノ者ナリ

質と云々非台利口と云々ひるふ俳侶と

俳優俳侶し又希流利口ある者の如き

あをたよひふ一ハ言葉と云てつひるハ

俳ハ一ハ是俳諧なり

誹ハ説文誹謗也从言非声或省作非前量

錯傳非謗不治ハイの音ありと云々ハ

音ありと云々ハイの音ハ通と云々ハ

の音の事ありて歳てつあ事なる俳諧歌と

云ハ一ハ音一ハ云いハものといふハ

ふハ一ハ音ハ古今集拾遺集にも俳の字と

用ひしもの負法修史も俳の字をて俳諧と

ていハ俳の字ハ一ハハハハハハハハハハハ

諧ハ羽皆切説文諧詒也从言皆聲廣

韻和也合也調也偶也

○連歌舊式目 人皇九十代後宇多院御宇建治二年以
強倉友谷為相卿の作 是ヲ大道と云

○同新式目 人皇九十九代後光嚴院應安五年
二条降同後尊光園殿下。書如玉。是ヲ小道と云

○新式追加 人皇百三代後花園院享徳元年
一条殿下同白蓋良云時の宗通に於て書如玉

○新式今案 人皇百五代後柏原院文龜元年月相 書
勅と信之 道遥院殿下実降云合辨一書如玉

○北野連歌出葉元祖ハ梵灯菴也 未社煙宮北身云
誹諧根元の書ハ新式と大規模し 松永貞徳
御筆と編ハ其後野ノ立圃の事ハ松永貞徳

乃毛吹草北村法印の撰本也

○連誹乃神に天満宮と崇む事ハ北野宮老人の作
二條殿下ハ其の也也の立水外水の書と梵灯菴全
ト抄と云ハ一トと云ハトハ聖連弁も立水の土葉と

梵灯の文書ハ神宮の書ハ神殿の御
連歌ハ御神ハ立水外水ハ是天満宮法御雙眼と

ハハ神宮ハ連弁ハ神宮ハ日本武尊と崇一し
性古連弁の神ハ日本武尊と崇一し

○應安ハ頃普光園殿下より侍云ハ宗通と云ハ
右此女書秘文ハ傳新在家ハつて代ハ連

歌ハ龜鏡ハ云ハ

○應永乃頃江州石山寺中會 二條殿下普光園殿

月ハ山月をー金に信の瑞 良基公

少浪うひる東も交う統 周阿

松一本ありぬ 萬葉のわらわ 侍公

此時ゆか好と宗通とある一座の好まハ 救済 善阿 光順 信順 良阿 智之

○慶長の頃清水金閣殿濟會 九條殿下号致山公

花子程乃を流人 新米の如 魚孝公

長ハ氣のひる色ぬる袖 貞徳

た。とりハ裾ぬる稚子馬すそ 玄吉

此の貞徳如く宗通とある一座の好まハ 宗親 守親 信巴 永種

山月を腰にさしふる扇の如 三條三光院殿 寶澄

山月の宗親の如く宗通とある一座の好まハ 此の好まハ

近衛殿下号龍女

宗親、とさしふる扇の如く好まハ 前久公

音人とそれと暮乃次あり 宗親

音ハと山月ハ好まハ好まハ 玄吉

音ハ明を侍 月ハ主人九 貞徳

山月の子の心とを 馬九亞相

親ハ乃親なり涼ハ 枇杷の枝 光廣御

太閤朝鮮出陣の時 二位

山月の子の心とを 法印玄吉

こゝれも也けははきもこめ出きき苔 秋原

五月おの拳のまのり勢苔の水 周阿

秋てて思今いひ田のい糸しき也 侍公

冬に粒系良のなまひく排茶外 宗紙

宗紙奥の席へ守武出たわらしに 荒木田 守武

おんかを尺造てもるまもみん月 宗紙

びしりーいさのあ忍河しきて 牡丹花 宗紙

あふひひの白 名あふしーし 牡丹花 肖拍

そしよきる也雨の望秋秋はきき 宗長

きりらぬのひぬせらきて森ぬまに 仙吟

とみちまの蕙やまきしきいぬいし 宗鑑

あふしーの答きやりしつふお外 源中 元政

ひしるんぬの菊の之と也南禅寺 照乘

しりこふよきしきる蕙のひ死窓 宗鑑

もしんらり花き兼おる思根外 宗糧

梅乃くお音なりし写と筆もいふ如 紹巴

あふ雪をあらもいしるあ風う下込 紹純

あふ雪あけくくも也いふうくろ 楚仙丈

卯午や本乃丸付ふの昔と株 慶友

雪折ひ川切竹や胡茶の湯 宗甫

うそいしんまのぬのまは具足餅 道春

世不ありしと見えあふしきを記す

○誹諧宗匠権輿

雪月花一度に足るるるるるる

貞徳

○^京貞門七誹仙

海棠花のやまやまのふかしの花
君のまじ茶の成りし人乃道
大上戸のふかしのふかしの
神堀の絶、折葉のほろろ
まじたしぬふのあやまのほろろ
いし海をよらるやあふ系は
花生、乃水多たもあはくしてけ

立圃 西武 今徳 貞室 季吟 梅盛

○江戸五誹哲

何と足るも雪のしるし物
ねふー蚕て寝てぬ火外
うらやー得達人丸中
上を下へて心そふ乃乃
去るんと空やゆけのら

徳元 未得 舌札 加友 卜粮

○万治寛文頃

此寒足録つゝ色むや雪乃道
音んさくの印撰新のあはれ
川音のー金又亭や屋形船
音菊やあはれ対の酒在

蝶子 貞宣 立軒 未琢 卜入

身くびく印のめまのし日

調和

^{元祿の}登程のまじり

同

花の月らまはらるるも

不卜

^{えん}そのあはれ

同

くみあをたふそまふの時

異俊

尺也るに死あまんや

尊明

^日いしりゆあし

友徳

^{田文}宿のたつらた

水元

待まきゆた人のゆ

清春

じまじりじやに

吟市

北白の栗本雪朝に下物の源子に

雪うよのやうへの

貞

雪おやむしに

松意

死をうへる

幽山

○元祿始ヨリ享保年中

名乃つぬ

湖春

作勢に清く

何のま乃花と

芭蕉

此字今もは涼而物中川文意へ遠く今落筆のゆあり

西風ひら

素堂

手紙乃後

似春

いたつや

露言

けくーを撰を壘色乃技折也
 雅なりて舟なりしる月夕
 年四甲く身出ると此の時外
 ちつちや青ととく地芝乃 隅
 花出らり子とあるる夫婦外
 竹の子や児の葉とさうりし
 毎一師もねも眠るや去ら雨
 炭と縁と物さうりし人 心
 色ととてあも地とるしす外
 水と船と合とゆく物や夕涼
 抽乃花のよの才の其白外
 兼豊
 山夕
 一晶
 其角
 嵐雪
 挑翁
 一蜂
 無倫
 沾徳
 介我

小男にさしけぬーや下とを
 家さけつとねもおまかす杭
 入古の種さうりし物も
 我形やー合とこの海井戸中
 寺とくし青と茶もあり海と
 心とくの後と隙はく清と外
 川筋やさうりし刻とさうりし
 碇川網とさうりし水と舟
 換石を雪のさうりし去り外
 夏つり乃夏のさうりし暮外
 秀和
 東潮
 遠水
 正友
 神叔
 素秋
 未陌
 常陽
 立嘯
 好柳
 松水

熟る熟るしくく庭の活る如 盤谷

志し魚乃戸田のまらや郭云 子英

此句真別須賀川等初撰一本戸を入りて
頃いしなるる英加入せしりしおしてはるを
加ふ子英とるるいしきすれ和歌方の舎屋を
おのゝる歌すそのも等初撰をさしては
今いしるも人も我も亡しては書書のいし
事の強めていふるふとあきいしひては
その二つは序子平ありあひておのゝるを
聞しりる歌の風雅を今かへしては白を捨ふ

喜下じいこてはくなくと東の節 和歌方 立志

雲は雪花をあらつりきよの月 和英

袖下のあはるたふははは 浮生

新田になりゆく中しく汐下 挙白

死ぬすく、い生れくつしを此去 蝶子息 二葉

此句歳且の英が英ありしは地ありしは酒のあり

庭根をさくまのひまもほや時多 堤亭

くすものも柳子かけしたつて 芥鉄

葉下とくはつるなるんはみみ 秋色

肩のいしに髪たあやう異さす 女 その女

中一朗の初めくも旬 佳風

見とや目を意にいしよあ葉摘 前 青娥

何を言ふ船とて足まは初時西 其谷

右ハ介又あらしきるいきしり 約々

○寛永頃京大坂宗匠大概

齒采	浦	本	廿日	七賢	乞	三夕	松	權	綿
采	采	采	采	采	采	采	采	采	采
安	一	定	宗	道	正	元	宗	空	休
靜	雪	重	伴	節	由	隣	因	存	南

連歌花下 新在家代

此	此	此	此	此	此	此	此	此	此
口	口	口	口	口	口	口	口	口	口
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
秋	春	道	天	天	天	天	天	天	天
倫	倫	寸	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺
安	安	安	安	安	安	安	安	安	安

侍 宗匠権典トス
慶安頃普光園殿始而宗匠賜号トス

心敬 僧都 專順 智温 塔川新庵 應永頃

在外 宗匠 能阿 法師 行助 法師

宗祇 法師 文明頃
不審奇 見外奇 自然奇
 宗砌 種玉菴ト云文龜二七月卒
 兼裁 文明頃
 堯吉志

專碩 文明頃
 宗牧 永祿頃
 宗長 右同頃
 宗粮 慶長頃
 貞德

肖拍 牡丹花
文龜頃
 昌休 右同
 當時宗匠祖

永仙 右同頃
 慶友 温野ト類云
長子 半井ト類ノ父也 氏在慶友又ト類云
 紹巴 右同
 當時宗匠祖

誹道大系譜 他國大略

新在家侍公十伏宗匠宗粮門

貞德 松永道通軒長頭丸 吟花廊 号老咲翁

慈父松永永種 撰外高槻城主松永霜臺嫡孫

悲母下冷泉如壽院御妹 元龜二生推藤熊

勝熊ノ声ヲカリテ道遊軒ト云説アリ

哥道ハ法印玄旨ノ門弟 慶長三戌八月

近衛殿下龍山公 九條殿下玳山公ヨリ法印玄旨

法橋宗粮法服紹巴等ニ仰有テ誹諧一道ノ

宗匠ヲ免許

兼應二癸巳十一月十五日卒 八十三 明心居士

有墳鳥羽賣相寺

和歌室珠二十卷 歌林操楸二十八卷

○上

裁恩記 御傘 紅梅子白 浚川 渚鞠

長子 昌三 松永 儒道 羅山子長男

一切經八千紙書

春齊 御儒学 本朝通鑑書

盤齋 加藤

長子 昌易 春秋館 儒道

御曲集 二竹 野間

一華堂

季子 永三 懷德堂 儒道

順菴 木下

長好 廣沢

誹門人

道春 杉家儒宗 羅山子

隨有 滝川

三之

御儒学所

省菴 安藤

儒宗家

道春昌三兩人ヲ貞徳道而入門惺窩先生

貞門七誹仙

一流祖

立圃

野口親重入道 号松翁

京 編集

とある小字 法万景 初月子白
あしそわ 吟々抄 梅邊子白
其多新元 河舟 小の来
万句 万物 小所をり
忍月一第 万輪車 硯をいひ
約よせ 大空 空つて
江戸集 三三三三 空つて
報法集 善後集 老名子白
とらひ手

京 辛和 江崎

編 和羊

和羊

常辰 年七

重栄 竹山

編 短使集 以下略之

一流祖

維舟

松江重頼入道 右同頃平行年七十四

京 重方 望月

編集

毛吹草
浮世長口
乳母
ひよりの

大子草
懐子
大井川
河世世の
福地河の
依兵中

天坂
弘永

現
鬼貫

京
言泉
池西

以下略

的傳

安原正章入道

猶子

元次安原

三 貞室

元和頃卒行年六十四

編集

玉海集
而白自注
乾重次作分

月續
氷室書
片言
悲母追若
独吟
五条百白

京
可頼
音地

貞恕
勢目

同
惠佐
藤本

大津
室次
乾

以下略

又
的傳

哥道二華堂門外十リ

四 西武

山本無外斬入道

延宝頃卒行年七十三

京
正在
小原

編集

鷹統波
ぬき袋
はのま
くろ
月續
何とぞ
ありく
ま

京
正伯
嶋本

京
隨流
松月菴

編永代紀

以下略

御歌学所

五 季吟

北村拾穂軒再昌院法印

本土江列北村

任京松原室町、東新王津島後被召出

編集

花千句
ふの井
いりこ
十金集

むとん木
彰大流波
北金集
法玉独吟
ふふ合

室永二酉六月

十五百率歌八十二

有墳池、八夕

正慶寺

哥玄

一万集抄
枕草子抄
大和物語抄

八代集抄
つとく抄
百人抄
源氏物語抄
世物語抄
其外三

京
元隣
山岳

同
可全
大村

同
則常
伊豆

編

湖春

父季吟同時被召出
元祿十丁巳正月十日卒

御歌集所

正立

住新玉津島

六 人之德

鷄冠井 又良徳ト云
寛文頃 中羊ノ卒

編集

崑山集 非諧四十余羊
土塵集 親炎

七 梅盛

高瀬他心子
元祿頃卒老羊

編集

口子抄 ありき
茂徳集 山ノ下
後子集 石玉集
後子集 早稲集

京 良保

京 友三 奥西

大坂 如貞 井口

京 今富 鷄冠井

尾州 友我

以下略

京 安重 内海

同 倫員 藤村

同 道襲 佐木

同 信徳 伊東

以下略

京 一雪

掠梨柳風菴
延宝頃卒

編集

瓶膏 茶抄
粉抄 小袖
作老及 玄羽成

京 重友

尾州 和

以下略

京 安靜

萩野似空軒

右同頃

編集

鄙談集 細布

貞門

馬淵宗時末吉道節
端氏定重宮川正由
是為の流武以

依照

京 俊秀

同 宗英

同 重隆

同 似船 富尾

偏 苗代水

江都宗匠

●五哲

安靜門

○德元 齊藤帆亭
寬永頃
住馬喰町三丁目
珂持家

編集
初學檢
若洲亭

○末得 石田乾堂
住神田鍋丁町持
屋鋪

編
五九集

調和 岸本壺瓢軒
号土齊
住吳服町

編
是才七草
土齊減後高才和葉
取意

正徳五乙未十月十七日卒
享年八十有餘
有墳筑地門跡地中
調和院道鑑士

德友 和英 壺枕舟
類
享保三酉二月四日卒
享年八十有餘

水元 万治頃

清春 昌雲軒
右日頃

編
安山集 康登集
子白集

埋木 住傳馬丁

好柳 壺井 住京橋

現 風堂 山崎月齋軒
住神田

現 艷士 横田壺谷軒

常陽 木戸 住京橋

後成 振津社職
享保三酉中卒

寬文九酉七月十八日卒
享年八十有餘
有墳淺草誓願寺
自性院未得居士

長男
未琢 石田良堂

編
屋父ノ住所
在哥ノ達人ナリ

天和二戌三月廿日卒
享年七十有餘
墳父同所
隆芳院未琢居士

編
意深 菊川卜改
入門吉田意安醫道

○上

門人
未陌 榎田氏
元祿頃 任中橋邊

不卜 岡村一柳齋
任壘江町

編 法々々系
元祿四庚未四月九日卒
有平河山法息寺墳

里風 秋氏
任芝三嶋丁

現 和推 壘尾敲柳堂

先師点印傳松曉林
和葉自和葉又
和推附屬

是 和金 壘尾
未宗匠

現 不角 立羽松月堂
号千翁 任八丁坂

編集 七十五版焼失 其後 百人一白三卷
法々々系 同十卷 同土卷 母秋集
信々々々 本居のあき秋

現 不局 立羽安月堂
二男 編 立羽松千堂
現 壽角 立羽松千堂

一雪門 服部氏
一負 寛文頃
編 貞隆の記

三 玄扎 高島氏
醫 寛永頃 任本町四丁目

疎心

編 十程千句
山夕 樋口

四 加友 荒木泰菴
寛文頃 任兩番町

現 山夕 桃井鳴蛙井
始山夕云

編 法々々云
日頃勢州松坂より名あり
是は春陽軒加友云

現 仙水 桃井
未宗匠

友德

正友

勢州杉木勾當望一身
住芝源助橋

延宝頃談林誹諧流布時
合辨田代松意而宗因荷擔

牡丹花孫

五卜

半井法眼
御醫始慶友卜云

父半井慶友是温野卜類云
拜領屋鋪鉄炮洲明石町裏
寬文頃 在哥ノ各人
父子在二慶友又卜類卜云有

男
卜仙 半井醫
未葉有子今

一峰

河曲田泉舍
号葛仙翁

住神田

於本土勢州山田享保十
己巳九月十五日卒

于時八十五秋

言水

池西氏
又季吟門云後住京

一

卜

山州伏見
菊岡氏

卜

寬文頃

梅原氏

一

元

隆

門田氏法橋
住久保町

中興一流祖

挑音

住新大橋
松尾大ノ軒釣月堂
号芭蕉翁

本土伊賀上野士松尾藤七郎
菊岡隨性軒如幻尊而入李
門正保元甲申生元祿七甲戌
十月十二日於大坂卒春秋五十一
葬江州粟津義仲寺
諸國墳

有江戸深川長慶寺
有伊賀上野万福寺
有京東山双林寺
有大坂道頓堀十日寺
有美濃大垣正覺寺
有肥前長崎南京寺
有奥州高麗古城跡碑

今德門

一

晶 芳賀冥靈堂
号崑山翁

元信德門 始京都
住兩替町

今德翁崑山印附屬之
在世用之此印行方不知
宝永四亥四月卒
年六十有餘

編

万水入海
丁外集
八宗懸隔

一

斧鉞 藤本羽仙存
享保初頃卒

十九

有真州素折短尺塚

編集

さるもの ねの細乃
多の八月 二十番仙
二百款

素堂 山口今日菴

始云信章又來雪トモ云
享保二申八月十五日卒
歳七十五 住本所
有墳谷中感應寺

似春 小西氏

後成三糸州行傳社藏
編 山之出らる

貞室門 蝶子 貞宜

編 万治頃 住嚴治橋

編 忠出子 物志子

朋友集 たらき
松茸き

いん八百款 何の友

正徳享保頃本御菊塚
同名アリ此門流ニアラス
古人ノ名ヲカリタルノミ

現 貞陸 住品川

佐保介我徒弟
今住川越

編 二葉子

尊明 服部氏 住本郷

不入

重頼門 幽山 高野丁ノ軒 住本町河岸

元禄頃藤堂任口公二仕ア
改竹内爲入
於勢州久居平老羊

立園門 立志 高井松樂軒

編 寛永頃 住本町四丁目
樗木集

編 立宜 高井松雨軒 若羊而平

秀和 大野炭瓢齋 号相水翁

正徳四申八月卒

編 秀堂 大野 未宗匠

吟市 叔氏 大徳院弟子

安住院學海和尚
本土江州 屋銀塘

天和二戌於江州卒
高弟又津見吟市受續
表徳御直糸非点者

無倫 志村拾葉軒 号雪堂翁

本土越後 住大錫町
享保八卯二月廿九日卒
有墳合海山青松寺

法名天實 硯壽居士
行年六十三

現 命里 且立德葉軒
住石町

編 來川 且立
始古鈴

神叔 音木氏
元祿頃 神道
住石町

浮生 北藤銀塘居
迦樓羅園
住銀町

編 原謙論 水秤集 古語話
享保三丁酉正月辛巳春
有墳小日向金剛寺
芭蕉系

其角 室井室晉齋
号晉子 住菜場町

編 新山家 夕々々 日續
たゞ心 白見牙 蠹集
あま岩 敷栞子 心々
難波集 尾尾松 多奈合
二上心 枯尾松 一々

室永四丙亥二月廿九日卒
有墳二本根上行寺 法花宗
有墳深川長慶寺 門立之

嵐雪 服部雪中菴

編 兼應三丁午生湯島稚名久米助ト云
天神宮銅鳥井二其名アリトソ
その家 了み水 住濱町
室永四丙亥十月十三日卒 辛酉秋
葬駒込常駿寺 法花宗

二男 立志 高井和階堂
始立詠ト云

編 高林院 立志百集
室永元甲申八月卒 數四十八
甲勢松坂加友明

子英 岩本氏 後止点著
住 始淺草
正徳頃卒 後卒不

現 起波 清水独步菴
住堺町

現 貞佐 東岡桑々畔
始平沙ト云
編集 九品 住本材木町

秋色 女 おあきと云
其角点印附属 居小網町

編 堤亭 下邑氏
住居吉町

享保三丙二月十日卒 有餘
有墳深川法禪寺

現 一漁 鶴海釣月堂
居淺草

編 傘車 鶴海
未宗匠

有墳深川長慶寺門金之
雪中菴不白玄峯居士

その女 女 おくのこゝろ

本土勢州山田渡會氏方十リ
依テ忌法体ヲ成ニ韃風頭ト
編 菊のちり 住深川

有深川灵巖念佛堂墳

挑翁 天野太自堂吳妙軒
始挑隣ト云

本土伊賀上野芭蕉翁
古朋友十リ 居神田

享保巳亥十一月卒七十有餘
葬浅中新光明寺

現 潭北 常盤百花莊

本土野州那須

編 沙の月日
及古き一
その去不 民家分量記
分量夜話

現 湖十 曾 不考

其角門人也先師点印
秋色ヨリ附屬ス依テ
此系二譜ス

現 永機 曾

現 挑翁 瀬尾大練舎

元永乃和門 始杜拾ト云
住柙塘

編 雨あがり 冬の日
かみさき ころもり

現 痛 陽秋 瀬尾 未宗五

介我 佐保草雨亭

享保三亥六月十八日歳六十七
有墳浅中本願寺

現 痛 穀我 佐保 未宗五

拳白 草壁氏

編 久祿ノ頃卒

現 立志 心保和敷才

始春水又立詠

編 香の果 巻のまじり
願中

現 立志 心保和敷才

享保九甲辰十一月廿昔
有浅中常福寺墳

現 水國 雲津鶴隣ト

今沾州門也 住攝所
雖然立圃五代預續ノ
宗匠十キニヨリニ系ハ譜茲

現 水國 雲津鶴隣ト

始晴星ト云

立志二代
点印ハ野州守都宮住
音山立鴨附屬

東潮 和田堵中子 号一甫 住西河岸

編 荏柄千白 冬の木 元禄、ス工二卒

素秋 熊谷氏 住橋町

右同時代

周竹 清水才松齋 号粥翁 住田取町

先師点印附属

白峰 三田風琴子 住神田

元露言門 一編 今菴 齋 住神田

當國 孫川了承亭 住神田

元盤谷門

丹水 住深川

前句判者三同名アリ

史登 榎井雪中菴 始李峒 住深川

嵐雪点印周竹ヨリ附属

編 和声 或同珍

今更 步田十存菴 始雁行 住神田

編 秀吉香

陰威 今村 始叔山 住麴町

舞山 帶金 始茂店 住

元才店門

風虎公

内藤左京亮義泰公御夏

非点者

御集 水のみさ 依るのこころ 山々川

御嫡

露沾公

内藤下野守義英公御夏

非点者

御集 有自

遊園堂傍池亭

露沾公門

露言

福田風琴子

編

言格 福田氏 齋

元調和門

始調也下云

御表徳、两字一字宛

住南傳馬町

而路言 白堂

露言 沾徳 二下

元禄四未四月十日卒六十有奈

遠水 樋口氏

住五ノ森町

露沾公門

水間合歡堂

沾德

始沿革卜云

元露言門

編

任中橋

一字忠蒙集

竹花千句 月鏡

享保十二年六月廿日卒有餘

有墳平河山法恩寺本理院了德日到

露沾公門

菊岡崔下菴南仙翁

現 沾涼

元一品門

始南仙卜云

編

任神田

百福壽

月鏡 百花實

秘虫の介

現 二男

梅五 菊岡

未宗匠

日本及中江程記

日光名跡志

江戸藤子温故志

露沾公門

赤萩

現 元胡十門

始花安卜云

現 尊

破笠

今止点者

現 編

勢吉

水間 知羊未宗匠

現

沾洲

貴志行軒翁

始民丁卜云

編

現 編 青條 貴志 未宗匠

音娥

篤田六峯仙

任茅場町

元東潮門

享保十五酉卒

現

音娥

前田二押菴

始又梁卜云

後泰室卜改 任菜研堰

現

沾山

内田桂坊

任淺草

現

成屋

長坂音苔礎

始仙拾卜云

耳谷

長島氏

享保十三卒

現

百洲

江川樹山甫

始尹督卜云

現

乾什

岩本千歳兒

始吳丈卜云

現

壺月

石川

現

常仙

志村孤鶴汀

紹純門

誹諧談林一流之祖

任大坂天滿

宗因

西山一幽 号西翁

又梅翁云又梅下翁氏

元連歌師

宗春

連哥

致也

杉山

延宝手中下武江而暫居弘談林一流

春倫

濱田

其外略

そのり百韻 友の集 独の集 十舎集 其外略

大坂

西鶴

二万堂 井原氏

一日二万三千句拙吟ソレヨリ二万翁トモ云

元禄六酉秋卒歳五十二

編

大矢叔

くろく石舎

朋骨

抄巻

石車

あまのこ世物語

松意

田代川草子談林軒

松水

杉本氏

編 虎溪集

大坂

後江北中町居

於龜戸天神宮面席

平友下兩人談林風流布宗肉荷擔

皇者誹諧之發起

盤谷

志水泉亭

現

尾谷

千足梅堂

任頼戸物町

北蓮塘

任神田

大坂

才磨

推本菅德翁

始西丸

佳風

豊島有紀堂

始才尾云

前任江戶

大坂門人略

任十力一町

伊勢真光寺昌英門

景俊

万治ノ頃

此末門不知

逸志

笠家半扇菴

任茂草

貞徳正統松永尺山門

現 貞山

相淵言丸舎 胡月亭

現 貞賀

拙子

一淵堂

編

ひくほ

江戸名所集

○古貴人 大略

日も暮ぬるや舟に如き女七夕

花もさきききれりあつこころ 景儀

月乃ぬちもほのくやわし丸

むしー燈の熱向とて脚のさき

○古人古老 大略 古風

白炭や焼ぬむしー入雪の枝

とき水を森てあがしーいさるゆへ

水さくくおとふしの沈むこいさる

その葉よりぬいあさるしー射り籠

岩城郡主 風虎子

父居郡主 任口子

明石郡主 松葉子

田原郡主 風隣子

忠知

未学

行吟

常信

○延宝年中大坂宗因東都にふる淡林遊路の流線

起しー世も多し淡林の本あり梅乃さる 宗因

此より梅翁と号淡林十百歌巻改しし雨

いさ折る人巾足きんふさる

くけらるやさよをた下の下凍

はくふらむじーいさるあさる

世介いさるあさるいさる

○元禄年中正凡作の飯其頃より享保より大槩

信しーいさるあさるあさる

石くぬぬぬの雨をまるとい

中くく日梅舟あさるー五月園

季柴

小沢氏 尺

調和門三輪氏 鉄

調和門 金獅

和葉

幽蘭

もこみえか子いっく〜菊の臺 芭蕉門 嵐蘭
 杉子言行のいしなる〜會所 在色
 表を新し子居るの秋を如き 枳風
 袖のまゆよのほりや玉柳 楓子
 蟹も今もよま〜神の泊り 仙花
 勤さなれ岩持もや星乃床 曾良
 さ〜なせ〜い〜古柳 岩泉
 そ〜切子汲物もた〜き〜如 池田 利牛
 箕子〜〜意い〜く〜松乃枕 小泉 孤屋
 物言ハ推の寒暖の〜 露吉門 干字
 ○この〜〜月〜〜吾の〜 似春門 事吟

口ぬや〜〜雪の人 一晶門 風曝
 タ〜〜大黒柳子〜 神尾 虚堂
 大信、歩死の月や浦ら〜 琴藏
 勅学のま〜〜白お〜 銀葉
 その〜ハ行忘〜〜凡の炭 其角門 岩翁
 舟の形や身後子〜〜通祖神 白内 朝叟
 子〜〜や蜀主なる浪士〜 津村 横儿
 幕況小川迄乃頂や斬〜 石内 序今
 馬のおき宿り目だけぬ枕把の花 古硯
 中〜い〜丸の摺乃〜 栢十
 尼寺の是あ〜満〜〜児凍〜 氷花

暮るの夜はく〜柳ては〜

同雷堂 百里

耳かきうるも候なるる花弁本

天壽道門 白雪

氣の候ひりあはる柳〜

不卜門 琴風

如き紙をさくや出るまや酒干巻

中立志門 出紫

飛鳥も尾出む〜

未立志門 免睡堂 立和

日にやきて〜

沾徳門 子葉

柳のく〜杜、母乃名の恨〜

18 又魚

雲水乃る〜

18 徳純

あはる人〜際限なく〜

あはる拾遺事〜

秋 大州

